

令和 4 年度
北九州市立看護専門学校
一般入学試験

国語問題用紙

(9:00 ~ 9:50 50 分)

＜注意事項＞

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が 16 ページまであります。
- 3 落丁・乱丁のある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄の数字をマークしてください。
 - ② 氏名欄に氏名・フリガナを記入してください。
- 5 問題冊子は回収します。

| |
|------|
| 受験番号 |
| |

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

IOT (Internet of Things) とは「モノのインターネット」といわれるようになり、「A」から見れば、モノがインターネットにつながることで、つながったモノに関する各種のサービス（操作を行つたり情報を得たり）がネットを通して使えるといふことだ。

しかし、単に機器と機器が接続し、モノが遠隔で操作できるだけだったら、インターネットを介して離れた場所からスマートフォンで機器の操作ができたり、エアコンの状態がインターネットの画面で見えるといったサービスが、すでに20年ほど前から存在していた。北欧では、自宅に帰る前にダン^⑦ボウ機のスイッチを車載電話機から入れるといったサービスが、30年以上前からできていた。

このような単なるネット対応と、世界で今話題になつていいIOTといわれているものの違いは、前者が「単に機器がネットにつながる」となのに対し、後者は「インターネットのように機器がつながる」ということだ。この違いは重要だ。

インターネットのようにつながるとは、「オープン」につながるということだ。インターネットは決められた通信手順（プロトコル）に従えば、接続する相手を制限せず誰とでもつながるというオープン性ゆえに、多くのノベーションを生んだ。それに対し、日本でIOTといわれているものは、機器を作つたメーカーのアプリにしかつながらないといったように、残念ながらクローズ志向なのだ。

例えばスマートフォンでテレビの録画予約ができるといつても、テレビを作つたメーカーの純正アプリからしか操作できなかつたりする。そういうものは単にネットから操作ができるというだけで、IOTとは言えない。

では、どのようなことができればIOTと呼べるのか。そもそもインターネットとは、世界中のコンピューターを全部つなげようという考え方だが、その原点にある。それはすなわち、ある企業が自分のコンピューターをネットにつなげたら、その機能を誰にでも使わせてあげるということ。もちろん誰にでもと言つても、約束を決めてそれを守つてくれる人だけに使わせるといつたように許可条件のあるのは当然で、そういうことをアクセスコントロールというが、明示的条件が合えば誰とでもつながるというのが原則だ。

そして、あるシステムから他のシステムの機能を使わせるといふときに必要になつてくるのが、API (Application Program Interface／アプリケーション・プログラム・インターフェース) だ。例えば、ビデオ機器をネットにつなげたら、ネットからどういった命令を送れば録画が開始されるかといった、機器を制御しているプログラムへのアクセスの仕方をオープン——公開し、適切なアクセスコントロールのもとで、他の人が作ったプログラムからも操作できるようにする。結果、自社製・他社製や通信キャリアを問わず、どんなアプリからでも許可された場合は操作できるようになる。つまり、企業の枠を越え、機器同士がつながる。こうしたオープンなインフラに支えられるのが本来のIOTの世界なのだ。

オープンなI・O・Tを上手に活用すれば、アイデア次第で、新しい④ジユヨウを生み出すような

B

な製品やアプリを生み出せる可

能性がある。しかも機器を作ったメーカーにとっては、まったく交流のなかつた外国のソフト会社が便利なスマホアプリを開発してくれて、そのため自社製品の売上が上がっていくという可能性もある。

ところが日本の多くのメーカーは、自社の技術やノウハウが社外に流出することや、ユーザーに対する動作保証の問題を⑤シンチヨウに考えすぎ、こういった取り組みにとても閉鎖的だった。他とつながるということに抵抗があつたわけだ。しかし、これから市場で競争していくには、もっと前向きに考え、オープンなI・O・Tの考え方で製品を開発していく時期に来ている。

I・O・T時代には²ソフトウエア的な発想が求められる。フェイスブックやツイッターから最近のウーバーまで、ソフトウエアによるサービスだけに特化し、モノの製造・販売はやらないというビジネスモデルを構築する企業が⑥タイトウしてきている。そのやり方ゆえに彼らは利益率が高く、2015年末には創業からわずか5年半のウーバーが、100年以上の歴史を誇るGM（ゼネラルモーターズ）を時価評価で追い抜くことが起ころる。

だからといって、すべての日本の製造企業がものづくりをやめ、ソフトウエアだけでイノベーションを起こすことはできないだろうし、そうすべきとも思わない。部品や素材に強い企業ならそれを極めるという選択もある。事実、日本の部品・素材メーカーは海外から見ても依然として優秀で、iPhoneの部品の50%近くは日本製だと言われる。しかし、全体として見るならば、I・O・Tの流れの中でソフトウエアの比重が高まるのは確実だ。

必要なのは、常に知識と技術を磨き、世界の動きを見て決断することだ。これから世の中がどういう方向に進み、どのようなことが予想されるかを常に自分の頭で考えて、自分たちはどういう位置にいてどうするかを決めていかないといけない。そうでなければ未来のマーケットを抑えることなどとてもできないだろう。

繰り返しになるが、重要なのは「インターネットのようにモノをつなぐ」こと。しつこいようだが「インターネットのように」とは、「オープン性」に基づいてつながなければならないということだ。「オープン性」こそがインターネットの本質なのだから。

軍事向けに利用してきたインターネット技術が民間に転用され、インターネットプロバイダーサービスが始まったのが1989年（平成元年）。

なぜインターネットで多くのイノベーションが起こったかというと、オープンなインフラ、基盤だったからだ。誰もがつながりたいと思つたときにつながることにより、ビジネスの機会は増えていった。機器をつなげている同じ基盤でコンテンツやプログラムの流通ができ、情報交換したり、シェアしたりすることもできる。こういう多様的な基盤だったから世界を変えた。

これらすべてがインターネットの本質、すなわち「いつでも、どこでも、だれでも、なんのためにでも、プログラムや機器をつなぐことが自由にできる」というオープン性によるものだ。

X

「昔前に、日本でも「スマートホーム」が流行したことがある。実は私自身も1980年代から、家の中にあるコンピューターの入った家電製品をすべて自由につなげるなどを提案し、「TRON電腦住宅」をはじめとしてネット時代の未来住宅の研究開発をしていました。これは海外にも紹介され、世界の家電メーカーなどに影響を与えた。しかし残念なことにそのビジネス化にあたり、³日本の家電メーカーの多くが、オープンにつなげるという考えに基づかなかつた。

現在のIOTブームはその頃に次ぐ第二次ブームだ。1990年代の終わり頃に「21世紀はホームネットワークの時代」だといつて、家庭内の機器がネット接続される未来イメージがブームになつた。当時世界の家電をリードしていた日本のメーカーは、通産省（現・経産省）の旗振りにより、メーカーの枠を越えて家電設備がつながる規格づくりを行つた。一応の成果があつたものの、結局つながるのはごく基本的な機能だけ。物理的な通信規格は早々に決まつたが、上位の⁴カーネギングの制御については、個々のメーカーの差別化志向のためにまとまらなかつた。

「オン／オフ」程度はできても、「当社のエコ自動と、貴社のecoオートは別で……」という具合で、ほとんどの機能が結局そのメーカーの機器からでないと操作できないということになつてしまつた。リモコン以下のことしかできないのに、その対応機能の分だけ高価になるということであつたく普及せず、その第一次ブームは立ち消えになつてしまつた。その時のトラウマから日本のメーカーがネット接続に対し後ろ向きになつたせいか、第二次とも言えるIOT化に関しては完全に世界に出遅れてしまつたわけだ。

第一次ブームでの失敗を「オープンかクローズか」という本質的な考え方には問題があると捉えなかつた日本のメーカーは、あいも変わらずネット家電でクローズな戦略を取り続けた。「A社の家電製品はA社同士ではつながるが、他社のものとはつながらない」、「B社の家電製品は、Bが提供するスマホアプリ以外からは制御できない」というようにしてしまつたのだ。

これに對して例えればグーグルが取つた戦略は完全オープン。同社が開発した「グーグルホーム」は、スマートスピーカーといわれるもので、スピーカー機能のほかにAIアシスタントによる音声認識機能を持つ。これに話しかけることで、テレビのチャンネルを変えるといった、インターネットを介してつながつた家電のコントロールができるが、どんなメーカーもAPIさえオープンにすれば、このリモコン機能を使えるようになつてている。この差は大きい。

少し考えればわかるように、どこか特定のメーカーの製品しか買わないという人はほとんどいない。テレビとエアコンと冷蔵庫、それらが

全部違うメーカーのものを買う人は多いだろう。そのときせつかくすべての機器はネットにつながるのに、まったく連携ができないとなつたらどうだろか。ネットにつながらない機器で十分だとなつてしまふのは当然だ。I・O・Tとは、モノ同士がオープンにつながることで初めてうまくいくのであり、 。

甲

なぜ日本の家電メーカーは、そうなつてしまふのか。理由として多いのが、「勘違い」だ。単に「ネットにつながればいい」「ネットから家電をコントロールできればいい」「それがI・O・Tだ」という勘違い。もちろん、何度も言うようにそういうものはI・O・Tとは言わない。

あらゆる外部のシステムからコントロールできるようAPIをオープンにして、初めてそれは本当の意味のI・O・T対応機器になつたと言える。自社のネットワークや自社のソフトウェアだけでしかコントロールできないものをI・O・T機器と呼ぶのとは、大違ひだ。

「API」は、モノをコントロールするときに、まず覚えておいてほしい言葉だ。コンピューターの専門用語だが、最近では一般的になつてきた。

APIとは、「スイッチをオンにしなさい／オフにしなさい」といったような、その機器を制御しているプログラムの一部。これを公開することにより、外部のシステムからネットワークを通してその機器を制御することを許可する。つまりAPIが公開されていれば、あるメーカーの家電に対して、誰でもそのAPIを使って、その家電を制御するスマホアプリをつくることができる。

（坂村健『イノベーションはいかに起こすか AI・I・O・T時代の社会革新』より）

問1

二重傍線部ア～オの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号はア 1、イ 2、ウ 3、エ 4、オ 5。

ア ダンボウ

ボウセキ工場を建設する
コウボウを構えて制作する
ボウガイの成功を喜ぶ
事件のゼンボウをつかむ
ティボウが決壊する

テンジュを全うした

世界新記録がジユリツされた
卒業証書がジユヨされる
自由をキヨウジユする
生活ヒツジユ品を購入する

イ ジュヨウ

シニチヨウ

⑤ ④ ③ ② ①
自宅でキンシン中である
選手はシユシンの判定に従う
状況をシンコクに受け取る
打撃フシンに悩んでいる
シンペん多忙を極める

- B A
 ① ① 形式面
 実用的
- ② ② 原理面
 理論的
- ③ ③ 現象面
 画期的
- ④ ④ 社会面
 効率的
- ⑤ ⑤ 経済面
 合理的
- 問2 空欄
 解答番号は A 6 、 B 7 。
- ④ カンジン
- 友人ソウダイとして挨拶する
 これならキュウダイだ
 タカダイに家を構える
 雨具をケイタイする
 タイグウが悪いとぼやく
- 名画にカンドウする
 彼女のカンシンを買う
 動物の生態をカンサツする
 カンゾウが弱っている
 不利な条件をカンジュする
- ⑤ ④ ③ ② ①
 ⑤ ④ ③ ② ①
- を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

問3 傍線部1 「インターネットのように、機器がつながる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 8。

- ① 明示的な条件が合えば、自社製、他社製や通信キャリアを問うことなく、機器同士が連携するということ。
- ② 決められた通信手順に従えば、接続する相手を制限することなく、誰にでもアクセスができるということ。
- ③ 企業が一致協力をして、世界中のコンピューターがすべてインターネットにつながるようにするということ。
- ④ 機器を制御しているプログラムへのアクセスの仕方をオープンにしてイノベーションを生み出すということ。
- ⑤ インターネットを介して、離れた場所からスマートフォンで機器の操作をすることが可能になるということ。

問4

傍線部2 「ソフトウェア的な発想」とあるが、これはどのような発想か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 9。

- ① 自分の企業のことだけを利己的に考えるのではなく、社会全体のことを考える利他的な発想。
- ② モノを製造し、販売することだけに特化することなく、幅広い経営を目指した多角的な発想。
- ③ 自社の技術やノウハウをオープンにすることによって、イノベーションを起こす積極的な発想。
- ④ 固定観念にとらわれることなく、常に自分の頭を用いて自由に考える、柔軟で創造的な発想。
- ⑤ これから社会がどのように進むのかを分析し、ニーズの高い商品を生み出す効率的な発想。

問5 空欄

X

に入る〔1〕～〔5〕の文を正しく並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は

10

〔1〕ここが重要だ。

〔2〕その本質がこのオープン性にあることを、まず理解することが重要だ。

〔3〕インターネットが、なぜ今の社会に大きな影響を与えたのか。

〔4〕そして、オープンになっていくからこそ、イノベーションが起こる。

〔5〕何かをするのに誰かに断らなければいけなかつたり、何かをやろうとしたときに誰かの支配を受けたりするクローズな環境では、なかなかイノベーションは起きない。

- ① [1] ↓ [5] ↓ [3] ↓ [2] ↓ [4]
② [2] ↓ [1] ↓ [5] ↓ [4] ↓ [3]
③ [2] ↓ [4] ↓ [1] ↓ [5] ↓ [3]
④ [4] ↓ [1] ↓ [5] ↓ [3] ↓ [2]
⑤ [4] ↓ [2] ↓ [3] ↓ [1] ↓ [5]

問6

傍線部3 「日本の家電メーカーの多くが、オープンにつなげるという考えに基づかなかつた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は

11

- ① 個々のメーカーが自社の利益にこだわり、差別化志向が強く、他社の足を引っ張ることに力を注いでいたから。
② APIというコンピューターの専門用語が一般化されておらず、企業においても勘違いして理解されていたから。
③ モノづくりで従来から技術に劣っていた日本のメーカーは、コンピューターに関する後れを取っていたから。
④ 先駆的な試みであつた第一次ブームに失敗をしたことで、その後ネット接続に後ろ向きになつてしまつたから。
⑤ IOTとはどのようなことであるかを、本質的に理解することができずに、従来の戦略を取り続けていたから。

問7 空欄

甲

にあてはまる文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は

12。

- ① 必要なのは技術以前に、社会に対する根本的な考え方を変えるということなのである
② 必要なのは戦略以前に、開発に対する場当たり的な取り組み方を変えるということなのである
③ 必要なのは技術以前に、ビジネスに対する基本的な考え方を変えるということなのである
④ 必要なのは戦略以前に、現状に対する消極的な取り組み方を変えるということなのである
⑤ 必要なのは技術以前に、インターネットに対する表層的な考え方を変えるということなのである

問8

本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は

13。

- ① 日本の企業がイノベーションを起こすことができないのは、前例を重視する日本社会が閉鎖的な社会であったからである。
② インターネットで多くのイノベーションが起つたのは、インターネットがオープンなインフラであつたからである。
③ インターネットから家電をコントロールすることができないのは、日本の企業がAPIをオープンにしていないからである。
④ 日本の企業がクローズな戦略を取り続けているのは、経済産業省が各メーカーをまとめようと力を注いでいないからである。
⑤ 現代のIOTブームに日本が乗ることができていないのは、メーカーの技術力が他の先進国よりも劣っているからである。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

「利他」とはなにか。

利他について研究を始めたとき、私は実は利他主義という立場にかなり懐疑的な考え方を持つていました。懐疑を通り越して、むしろ「利他

私はこれまで、目の見えない人や吃音の人、四肢切断した人など、さまざまな障害を持つている人が、どのように世界を認識し、その体をどのように使いこなすのかを調査してきました。

理由は迫つて説明しますが、障害のある人と関わるなかで、利他的な精神や行動があ
遭遇してきたからです。「困っている人のために」という周囲の思いが、結果として全然本人のためになつていません。利他は利他的ではない
のではないか？ そんな敵意のような警戒心を抱くようになつっていたのです。

でも、だからこそ思いました。利他のことを正面から考えてみたい、と。なんて
も研究者というのは、得てして本人にとつてよく分からぬもの、苦手なものを研究対象とするものなのです。

A なんだ、と思われるかもしれません。けれど

(中略)

特定の目的に向けて他者をコントロールすること。私は、これが利他の最大の敵なのではないかと思っています。

冒頭で、私は「利他ぎらい」から研究を出発したとお話ししました。なぜそこまで利他に警戒心を抱いていたのかというと、これまでの研究のなかで、他者のために何かよいことをしようとする思いが、しばしば、その他者をコントロールし、支配することにつながると感じていたからです。¹ 善意が、むしろ壁になるのです。

「障害者を演じなきやいけない窮屈さがある」と彼女は言います。晴眼者が障害のある人を助けたいという思いそのものは、すばらしいものです。けれども、それがしばしば「善意の押しつけ」という形をとってしまう。障害者が、健常者の思う「正義」を実行するための道具にさせられてしまうのです。

若年性アルツハイマー型認知症当事者の丹野智文さんともふみも、私によるインタビューのなかで、同じようなことを話しています。

助けてって言つて言つてないのに助ける人が多いから、イライラするんじやないかな。家族の会に行つても、家族が当事者のお弁当を持つてきてあげて、ふたを開けてあげて、割り箸を割つて、はい食べなさい、というのが当たり前だからね。「それ、おかしくない? できるのになぜそこまでするの?」って聞いたら、「やさしいからでしょ」とて。「でもこれは本人の自立を奪つてない?」って言つたら、一回怒られたよ。でもぼくは言い続けるよ。だつてこれをずっとやられたら、本人はどんどんできなくなっちゃう。

認知症の当事者が怒りっぽいのは、周りの人が助けすぎるからなんじやないか、と丹野さんは言います。何かを自分でやろうと思うと、先回りしてぱっとサポートが入る。お弁当を食べるときにも、割り箸をぱっと割つてくれるといつたように、やつてくれることがむしろ本人たちの自立を奪つている。病気になつたことで失敗が許されなくなり、挑戦ができなくなり、自己肯定感が下がっていく。丹野さんは、周りの人のやさしさが、当事者を追い込んでいると言います。

ここに圧倒的に欠けているのは、²他者に対する信頼です。目が見えなかつたり、認知症があつたりと、自分と違う世界を生きている人に對して、その力を信じ、任せること。やさしさからつい先回りしてしまうのは、その人を信じていないことの裏返しだともいえます。【I】

社会心理学が専門の山岸俊男は、信頼と安心はまったく別のものだと論じています。どちらも似た言葉のように思えますが、ある一点において、ふたつはまったく逆のベクトルを向いています。

その一点とは「不確実性」に開かれているか、閉じてしているか。山岸は『安心社会から信頼社会へ』のなかで、その違いをこんなふうに語っています。

信頼は、社会的不確実性が存在しているにもかかわらず、相手の（自分に対する感情までも含めた意味での）人間性のゆえに、相手が自分に対してひどい行動はとらないだろうと考えることです。これに対して安心は、そもそもそのような社会的不確実性が存在していないと感じることを意味します。

安心は、相手が想定外の行動をとる可能性を意識していない状態です。要するに、相手の行動が自分のコントロール下に置かれていると感じている。【II】

それに対して、信頼とは、相手が想定外の行動をとるかもしれないこと、それによって自分が不利益を被るかもしれないことを前提としています。つまり「社会的不確実性」が存在する。にもかかわらず、それでもなお、相手はひどい行動をとらないだろうと信じること。これが信頼です。

〔A〕 信頼するとき、人は相手の自律性を尊重し、支配するのではなくゆだねているのです。これがないと、ついつい自分の価値観を押しつけてしまい、結果的に相手のためにならない、というすれ違いが起こる。相手の力を信じることは、利他にとつて絶対的に必要なことです。【III】

私が出産直後に数字ばかり気にしてしまい、うまく授乳できなかつたのも、赤ん坊の力を信じられていなかつたからです。もちろん、安心の追求は重要です。問題は、安心の追求には終わりがないことです。一〇〇%の安心はありません。

信頼はリスクを意識しているのに大丈夫だと思う点で、不合理な感情だと思われるかもしれません。しかし、「この安心の終わりのなさを考えるならば、むしろ、「ここから先は人を信じよう」という判断をしたほうが、合理的である」ということができます。

利他的な行動には、本質的に、「これをあげたら相手にとつて利になるだろう」という、「私の思い」が含まれています。重要なのは、それが「私の思い」でしかないことです。

〔B〕 思いは 相手にとって利になるだろう」が「これをあげるんだから相手は喜ぶはずだ」に変わり、さらには「相手は喜ぶべきだ」になるとき、利他の心は、容易に相手を支配することにつながってしまいます。

つまり、利他の大原則は、「自分の行為の結果はコントロールできない」ということなのではないかと思います。やつてみて、相手が実際にどう思うかは分からぬ。分からぬけど、それでもやってみる。【IV】

「自分の行為の結果はコントロールできない」とは、別の言い方をすれば、「見返りは期待できない」ということです。「自分がこれをあげるんだから相手は喜ぶはずだ」という押しつけが始まるとき、人は利他を自己犠牲とどちらえており、その見返りを相手に求めていることになります。

私たちのなかにもつい芽生えてしまいがちな、見返りを求める心。先述のハリファックスは、〔甲〕。「自分自身を、他者を助け問題を解決する救済者と見なすと、気づかぬうちに権力志向、うぬぼれ、自己陶酔へと傾きかねません」(『Compassion』)。

アタリの言う合理的利他主義や、「情けは人のためならず」の発想は、他人に利することがめぐりめぐつて自分にかえつてくると考へる点で、他者の支配につながる危険をはらんでいます。ポイントはおそらく、「めぐりめぐつて」というところでしよう。めぐりめぐつていく過程で、私の「思い」が「予測できなさ」に吸収されるならば、むしろそれは他者を支配しないための想像力を用意してくれているようにも思います。

どうなるか分からぬけれど、それでもやつてみる。ブレイディみかこは、コロナ禍の英国ブライトンで彼女が目にした光景について語っています（ブレイディみかこ×栗原康「コロナ禍と『クソどうでもいい仕事』について」、「文學界」二〇二〇年一〇月号）。

ブレイディによれば、町がロックダウンしているさなか、一人暮らしのお年寄りや自主隔離に入った人に食料品を届けるネットワークをつくるために、自分の連絡先を書いた手づくりのチラシを自宅の壁に貼つたり、隣人のポストに入れて回つたりしていた人がいたそうです。普通ならば「個人情報が悪用されるのではないか」などと警戒するところですが、そうではなく、とりあえずできることをやろうと動き出した人がいた。【V】

ブレイディは、これは一種のアナキズムだと言います。アナキズムというと一切合切破壊するというイメージがありますが、政府などの上からのコントロールが働いていない状況下で、相互扶助のために立ち上がるという側面もある。コロナ禍において、とりあえず自分でできることをしようとして立ち上がった人は、日本においても多かったように思います。

レベッカ・ソルニットの「災害ユートピア」という言葉があります。これは、地震や洪水など危機に見舞われた状況のなかで、人々が利己的になるどころか、むしろ見知らぬ人のために行動するユートピア的な状況を指した言葉です。

このようなことが起ころうとする一つのポイントは、非常時の混乱した状況のなかで、平常時のシステムが機能不全になり、さらに状況が刻々と変化するなかで、自分の行為の結果が予測できなくなることにあるのではないかと思います。どうなるか分からぬけれど、それでもやつてみる。混乱のなかでこそ³純粹な利他が生まれるようにみえる背景には、この「読みなさ」がありそうです。

（伊藤亜紗^{あさ} 「『うつわ』的利他——ケアの現場から」 より）

問1 空欄

解答番号はあ
14 、い
15 、う
16 。

- ① さらに ② まして ③ たしかに ④ つまり ⑤ むしろ

問2 空欄

A A
17 、
B B
18 。

を補うのに、最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

- A ① 人でなし ② あまのじやく ③ 門外漢 ④ 正直者 ⑤ 出しやばり
B ① 思いやり ② 思いつき ③ 思い違い ④ 思い込み ⑤ 思い過ごし

問3 傍線部1 「善意が、むしろ壁になる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は
19 。

- ① 周りの人のやさしさが、本人の自立性を奪うことになり、周りの人の気持ちが萎えてしまうということ。
② 他者のために何かよいことをしようという思いが強すぎると、自己陶酔に陥ることになるということ。
③ 他者を制御し、支配しようとする思いが他者に伝わり、他者との間がぎくしゃくしてしまってこと。
④ 他者の気持ちを考えず、自分の気持ちを押し付けてしまうと、他者は利他ぎらいになるということ。
⑤ 困っている人のためにという思いが、結果として本人の為になつておらず、仇あだになつているということ。

問4 傍線部2 「他者に対する信頼」とあるが、これはどのような信頼か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、20。

- ① 相手がひどい行動をしないと考えているが、その予想はしばしばはずれる、一見合理的だが、実は不合理な信頼。
② 相手が想定外の行動をとるかもしれないが、それは仕方がないとあきらめた、一見不確実なのだが、実は確実な信頼。
③ 相手が自分に不利益を与える可能性はあるものの、それでも大丈夫だと思う、一見不合理だが、実は合理的な信頼。
④ 相手の行動をコントロール下に置いているが、いつ破られるかが分からず、一見確実に見えて、実は不確実な信頼。
⑤ 相手がいくら人間性に基づき行動しても、予想外のリスクが発生するため、一見合理的に見えても、実は不合理な信頼。

問5

空欄

甲

を補うのに、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は21。

- ① 大風呂敷を広げます
② 皮肉たっぷりに語ります
③ 有り体に言います
④ やりだま槍玉にあげます
⑤ 警鐘を鳴らします

問6 次の一文を挿入する場所として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は22。

この不確実性を意識していない利他は、押しつけであり、ひどい場合には暴力になります。

- ① [I] ② [II] ③ [III] ④ [IV] ⑤ [V]

問7 傍線部3「純粹な利他」とあるが、これはどのような利他的な行為か。その説明として、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 23。

- ① 平常時ではなく非常時の混乱した状態の中ではじめて実現する、他者を制御し、支配しない利他的な行為。
- ② 自分の行為が必ず相手の意に沿うとは限らないことを前提にして、見返りを求めずに行われる利他的な行為。
- ③ 他人の利益になるだけではなく、最終的には自分にとつても利益になる相互扶助をもたらす利他的な行為。
- ④ 自分の行為を自分ではコントロールできないことを認識し、自己陶酔やうぬぼれに陥らない利他的な行為。
- ⑤ 相手の心の内は理解できないのだから、相手のことなど考えず、自分が満足するために行う利他的な行為。

問8 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は 24。

- ① これをしてあげたら相手は喜ぶだろうということを、自己犠牲をともなつたとしても、相手のために行う利他でなければならない。
- ② 相手のことを思い、利他的な行動を取ろうとするのではなく、自分が正義と思うことを強く信じて、実行することが重要である。
- ③ 障害者のためを思つて、周りの人が何でもかんでも助けすぎると、障害者は甘えてしまうので、できることは自分で行う必要がある。
- ④ コロナ禍において、自分の行為の結果が予測できなくて、どうなるかが分からなくとも、見知らぬ人のために行動する人がいた。
- ⑤ 多様な人が共存、共生する現代社会においては、不確実性をなくし、リスクのない確実な社会を構築することが求められている。

